

起し、読書の喜びや感動を得させる
手立てをくふうする。

三、作文の指導を計画的に行い 文章表現力の向上を図る。

(一) 作文の指導計画を整備し、指導時
数を確保する。その際、学年の発達
に即し、作文指導の目標や内容的
確に押さえ、系統性のある指導計画
とする。

(二) 実際に文章を書く機会を多くする
とともに、「読むこと」や「ことば
のきまり」の指導などの関連を考
慮して、一人一人の能力に留意しな
がら文章表現力の向上を図るよう
にする。

四、書写の指導を計画的に行い 文字に対する意識を深め、正し く整えて速く書く能力や態度を 身につけさせるよう努力する。

(一) 書写の指導時数を確保し、国語科
書写の性格を正しくとらえ、指導計
画を検討する。

(二) 文字指導や作文指導など他領域と
の関連を考慮して、書写学習の成果
が生徒の日常生活の中でも生かされる
よう指導の内容や方法をくふうする。

五、言葉の機能と感覚をみがき 言葉をたいせつにする態度を 育てる。

(一) 読むこと、書くこと、聞くこと、
話すことの具体的な言語活動を通し
て、理解と表現に役立つ「ことばの
きまり」を身につけさせるよう、そ
れぞれの領域の指導事項との関連を
押さえ効果的に指導する。

(二) 学校における言語環境を整え、学
校生活の全体をとおして、国語の
能力を身につけさせるようくふう
する。

六、教材内容の研究を深めると ともに、効果的な指導法につ いて研究する。

(一) 指導のねらいを明確にし、指導す
べき内容を重点的にとらえ、ゆとり
のある指導過程を組織し、生徒の積
極的な学習態度を育成するようにな
る。

(二) 国語科の指導内容は、指導事項と
教材と活動とによって具体化される。
したがって、指導事項を中心にす
えて教科書教材を検討する教材研究
を深めるよう努力する。

(三) 授業では、生徒の興味や問題意識
を大事にし、集団の課題意識にまで
高めていくようにする。

更に、個人思考と集団思考によつ
て思考を深め、練り上げていく学習
方法を身につけさせ、人間形成につ
ながる思考力や心情を育てる指導を
重視する。

高等学校

高等学校においては、生活に必要な
国語の能力を完全に身につけさせ
るため、中学校の学習の基礎の上
に、各科目、各領域の関連を図ると
ともに、その取り扱いをくふうするこ
とが必要である。このため、次の事
項に留意して指導することが望まれ
る。

一、国語科における基礎的な能 力を身につけさせるよう努力 する。

(一) 漢字力、語い力の指導の徹底を図
るため、生徒の実態をは握し、その
うえでの指導のくふうをする。

必要によっては、教科書教材での
指導にとどまらず、漢字指導計画を
立案し、有効な教材を用意し、指導
法をくふうする。

(二) 日常の学習に辞書をじゅうぶん活
用させ、ことばをたいせつにする習
慣、態度の形成に努力する。

(三) 的確に話すことに加えて、正確に
聞きとる能力を育成するとともに、
相手を尊重して、「話し、聞く」習慣、
態度の形成にいつそう努力する。

二、文章の正しい解釈、豊かな 鑑賞の能力を身につけさせる よう努力する。

(一) 教材を深く見極めたうえで、個々
の教材にふさわしい指導事項を選定
し、重点のおき方、扱い方をくふう
する。

(二) 教材の質によって、それを概念的
におさえ、理的に処理する学習と
感覚を通して知る学習、あるいは、
細部を精細に読みとる学習と全体を
概括的に掌握する学習を有機的、効
果的に組織して指導する。

(三) 進んで読書する習慣を形成するた
め、当面、教科書教材と関連した
適切な読書指導を組織し指導する。

(四) 特に、古典の取り扱いにおいては
知識伝達に終始しがちな指導のあり
方に検討を加えるとともに、生徒が
自発的、意欲的に学習する面での指
導のあり方をくふうする。

三、正しい文章、豊かな文章を 表現する能力を身につけさせ るよう努力する。

(一) 段階的、系統的な作文の指導計画
を作成し、その指導に当たっては、
指導目標との関連や、作品の実態に
よって、その評価や処理についてく
ふうする。

(二) 読む指導の中に書く指導をじゅう
ぶん取り入れ、表現に必要な、適切
にして豊かな語いを身につけさせる
ようくふうする。